

## ミクロ・マクロ経済学演習 復習問題(第10回)

2013.12.4 担当：河田

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

※ 12月9日(月)17時までに、河田研究室(514)まで提出すること。

※ 途中の式や思考過程はそのままにしておくこと。

1. 独占市場において、需要曲線が  $D = 100 - 2P$ 、総費用が  $TC = x^2 + 5x + 10$  ( $P$ : 価格、 $D$ : 需要量、 $x$ : 生産量) で与えられているとき、均衡における財の価格はいくらか。

2. 次の表は、ある国の経済活動の規模を表したものであるが、この場合における空所 A~C の値の組合せとして、妥当なのはどれか。

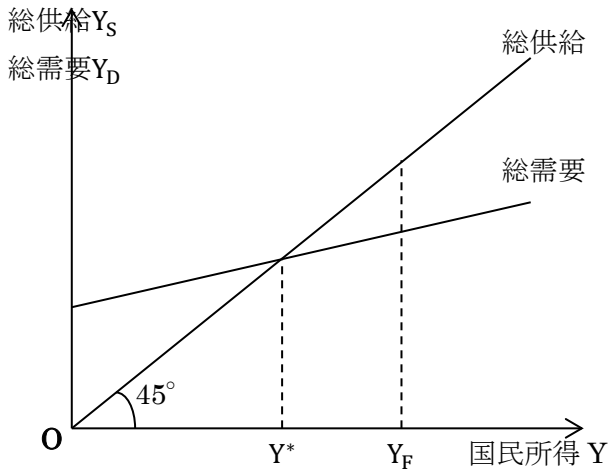
|                   |     |
|-------------------|-----|
| 国内総生産             | 515 |
| 国民純生産(市場価格表示)     | 420 |
| 国民所得(要素費用表示)      | 385 |
| 民間最終消費支出          | A   |
| 政府最終消費支出          | 85  |
| 国内総資本形成           | 140 |
| 財貨・サービスの純輸出       | 5   |
| 海外からの所得の純受取       | 5   |
| 固定資本減耗            | B   |
| 生産・輸入品に課される税(間接税) | 40  |
| 補助金               | C   |

|     | A   | B   | C  |
|-----|-----|-----|----|
| 1 : | 285 | 100 | 5  |
| 2 : | 250 | 70  | 10 |
| 3 : | 250 | 100 | 10 |
| 4 : | 285 | 75  | 5  |
| 5 : | 250 | 100 | 5  |

(特別区 2005)

3. 図は国民所得と総供給、総需要の関係を表したものである。ここで、 $Y^*$ は均衡国民所得、 $Y_F$ は完全雇用国民所得であり、 $Y_F$ は 500 兆円である。また、投資を 100 兆円とし、消費関数を  $C = 0.5Y + 50$  (単位は兆円) とする。

このとき、 $Y_F$ に関する次の記述のうち、最も妥当なものはどれか。ただし、政府部門は考慮せず、総需要は消費と投資からなるものとする。



- 1 :  $Y_F$ においては、インフレ・ギャップが生じており、その金額は 200 兆円である。
- 2 :  $Y_F$ においては、デフレ・ギャップが生じており、その金額は 200 兆円である。
- 3 :  $Y_F$ においては、インフレ・ギャップが生じており、その金額は 100 兆円である。
- 4 :  $Y_F$ においては、デフレ・ギャップが生じており、その金額は 100 兆円である。
- 5 :  $Y_F$ においては、インフレ・ギャップもデフレ・ギャップも生じていない。

(国家Ⅱ種)

4. ある国の経済が、

$$\begin{aligned}
 Y &= C + I + G + EX - IM \\
 C &= 0.7Y + 100 \\
 I &= 110 \\
 G &= 30 \\
 EX &= 120 \\
 IM &= 0.1Y
 \end{aligned}$$

[ Y : 国民所得、C : 消費、I : 投資  
G : 政府支出、EX : 輸出、IM : 輸入 ]

で示されるとする。この国の経済において完全雇用国民所得が 1000 のとき、インフレ・ギャップ又はデフレ・ギャップが発生した場合、このギャップを解消するためにとられる政策の記述として、妥当なものはどれか。

- 1 : 40 の増税を行う。
- 2 : 40 の政府支出を増やす。
- 3 : 60 の増税を行う。
- 4 : 60 の減税を行う。
- 5 : 100 の政府支出を減らす

(特別区 2011)